

メッセージ

「コンピューターは文楽と同じです。“人間”というソフトが“人形”というハードを操り、はじめて命を与えられ、生き生きと動き出すのです。」コンピューターと文楽をこんなに上手に表現された或る会社のトップの一言が、私が文楽の深みにはまるきっかけとなりました。

くだんのコンピューターソフト会社の広告写真で「お初」を撮影した日から文楽を追いつけ、もう文楽とは切っても切れない間柄となりました。

こちらは女と男の話ですが、切っても切れない仲といえば、もうこれは近松門左衛門の世界です。その「近松先生ゆかりの地」鯖江市で写真展というお話を戴き、先生にお近付きになれるようで嬉しくもありますが、緊張もし、ソワソワと落ち着かない日々となりました。

「文楽に観る近松物」というテーマで、撮影を始めた日から写真を見返してセレクトをしました。随分と昔に撮影したものが沢山ありますが、作品づくりをしていると、それら全ての舞台がまざまざと蘇ってきます。その時の感動を、少しでも皆様方にお伝えできれば、これほど嬉しい事は有りません。

フォトグラファー 河原久雄



「お夏」



「忠兵衛」



「お初」



「お花 / 半七」

Hisao Kawahara

河原 久雄

フォトグラファー



1948年京都市生まれ。藤川デザイン学院（現 京都造形芸術大学）卒。大阪・三宅信吾氏に師事、大阪・日経広告写真部、札幌・凸版アイデアセンター写真スタジオを経て、1984年東京にてフリーとなる。広告写真の道を歩む一方、1987年に撮影依頼された「文楽」に魅せられ、以降その取材に没頭する。

国立劇場、国立文楽劇場、文楽協会、人形浄瑠璃「文楽座」そのほか出版社、放送局、自治団体に作品を提供し、国内外の展覧会で作品の発表を続けている。

【著書】

『文楽-人形のこころ-河原久雄写真集』（講談社インターナショナル）1993年『河原久雄 文楽写真集』（日本経済新聞出版社）2009年